

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400226
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ宇和
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目233番地
自己評価作成日	平成21年12月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者さんのできる事を奪うことなく、一人一人の気持ちを考えながら、その人らしく生活していただける様に支援している。
外出・外泊後「お帰り」と出迎える心を持ち、第2の我が家になるよう、居心地の良さを提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎月、ご家族とかかりつけ医を受診されて、お好きな「うどん」を食べて帰られる方もある。職員とともに、ご自宅に戻ってみられたり、ご家族とお墓参りをされる方もある。以前住まわれていたところの民生委員の方やお友達が訪ねて来てくれることもある。ご家族から届いた手紙には、必ずご本人から返事を出せるよう支援されている。
職員は、利用者の出来ることを行ってもらえるよう支援されており、見守りながら「お願いします」「ありがとうがございました」と声掛けをされていた。食後の歯磨きをされる際、歯磨き粉がなくなった利用者に、職員は「この間、一緒に買いに行った時の歯磨き粉ですよ」と新しいものをお見せして、ご本人にも納得していただきながら取り替えておられた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ宇和

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 笹田 智子

評価完了日 H21年 12月 27日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設当初にその時にいた職員で作った理念で、新入職員・異動で配属した職員にはその都度説明をし、目に付く所に掲示することで、いつも心にとめて介護にあたってもらえている。	
			(外部評価) 事業所では「みんなの個性、意思、人生を大切に、楽しい刺激のある自由な生活を送れるよう支援します」と開設時に理念を作成され、職員会時等で理念について話し合いながら、実践につなげられるよう取り組まれている。	管理者は、職員全員で話し合っ、地域密着型サービス事業所としての理念について、検討していきたいと考えておられた。地域の中にある地域密着型サービス事業所として、どのようなことを目指していくかということについて、話し合いながら取り組みをすすめていかれてほしい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の祭りや行事に参加している。(亥の子・五つ鹿・敬老会など) 買い物は主に町内で行い、入居者さんと一緒に行くようにしている。 散歩や畑に行ったときに会う方へは挨拶や話をしてる。回覧板を回してもらっている。	
			(外部評価) 職員とともに近くのスーパーへ食材を買い行かれたり、ホームセンター等に利用者の生活用品等を買に出かけておられる。交通量の少ない安全なコースを選び、お散歩に出かけて、ご近所の方達と出会った際には挨拶を交わしておられる。事業所では、第1回の「介護教室」を開催された。回覧板で案内されたが、今回は地域の方の参加はなかったようである。	「介護教室(介護予防)に行ってみたい」と思っておられる地域の方からの声はあるようだが、現在は参加に結びついていないようである。今後も、アイデアを持ち寄り、事業所の特性を活かして地域の認知症ケアの向上に貢献していかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護教室を開き、地域に向けての取り組みを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) サービスの実施状況・入居者や職員の入れ替わり・感染症などへの取り組みなどホーム側からの報告のみでほとんど意見が出ない。 市の職員さんからはアドバイス・情報をいただき、運営に役立てている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、事業所の取り組みや活動について報告して、ご意見をうかがうようにされている。現在は、出席者からのご意見は少なめで、出席者から「外部者が出席する意味」についての質問も出ているようである。次回の運営推進会議から、同じ地域にある法人のグループホームと、相互に出席することを計画されていた。</p>	<p>会議の目的や意義を明確に示されたり、事業所にとっても意義のある会議となるようなすすめ方の工夫が期待される。いろいろな立場の方に出席いただけるよう、案内や内容の工夫を重ねながら、事業所独自の会議開催に取り組んでいかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当職員の方に運営推進会議へ参加してもらっていて、その時に事業所の実情等に関する報告をし、毎月1回入退居状況の報告時に情報交換をしている。質問・苦情・事故などがあれば、その都度、報告・連絡・相談している。 介護相談員の方の訪問もあり。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に、市の担当者から、新型インフルエンザやノロウイルスについての情報を報告いただいたり、日々の中でもケアサービスについて事業所で疑問に感じることは、相談しながら取組みをすすめておられる。又、市主催の研修会へも参加して勉強されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 新入職員・異動で配属した職員に対して、「身体拘束はなぜしてはいけないのか、どういったことが拘束になるのか」などの資料を配布し、日頃よりしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所内に身体拘束についてのマニュアルを掲示されている。又、身体拘束についての研修に参加した職員が、研修内容を報告されている。特に、利用者への「言葉掛け」に注意を払い、拘束をしないケアに日々取り組まれている。病院を退院後、ご家族と相談の上、安全のために数日ベッド柵をされていた利用者もあったが、現在は、床にマットを敷き対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内研修もあり、スタッフ間での話し合いや声のかけ合いで、虐待の防止は徹底されている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度については研修に参加し知っているが、詳しくは理解できていない。 現在入居中の方にはおられないが、必要な方が入居されれば、支援できるよう制度の理解に努めたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長が丁寧に行っている。 法改定時は、説明文章を添えて同意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話対応の際必ず近況報告をし、家族が職員と話しやすいようこちらから働きかけている。意見箱を玄関に設置している。契約時に相談窓口について説明している。家族からの意見に対し、スタッフ会等で話し合い対応し、家族に報告している。個別援助計画に家族の意見欄を設けている。入居者さんへは、日頃から気持ちを聞いたり、思いの理解に努め対応している。介護相談員の訪問もあり、意見を聞いてもらっている。 (外部評価) 毎月、ご家族にお手紙と写真を送付して、ご本人の様子を伝えておられる。又、来訪時には、近況報告や新人職員を紹介されている。玄関には、職員の写真とメッセージを掲示し、ご家族とのコミュニケーションのきっかけにもなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人課長が、11月に2週間ホームの実情把握のため実習に来られた。その際、全職員より意見の聞き取りをされ、すぐに対応可能なことは対応してもらった。2ヶ月に1回の法人付帯施設会議、週1回の稼働状況報告の際、施設長から運営者に向けて話しをしているが、なかなかスムーズには要望は通らない。施設長は毎月のスタッフ会、個人面接、日常の意見交換でその都度対応してくれている。 (外部評価) 日々のケアについて、職員の意見や気付きを申し送りノートに記入し、ケアに反映されている。管理者は、職員の体制のことや庭・花壇の手入れの協力者の確保等、お願いしたいことを法人に伝えておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得を奨励し、有資格者には正職員登用制度もでき、努力しているのではないかと思うが、まだまだ良い環境とは言えない。 退職者の補充は2ヶ月以内と以前より早い対応がされている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年2回能力開発カードの実施と管理者からの報告はしているが、職員1人1人の把握ができていないと思えない。 法人で新入職員・中堅者・管理者研修がある。法人外の研修情報提供と参加のためのフォローもされている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ほとんどが法人内の交流で外部の同業者との交流の機会を与えてもらえてない。 研修会などでの交流はあるが、その場だけの交流になっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ゆっくり話を聞き、その方の思いの理解に努め対応している。 意思疎通が困難な方は行動等で理解しようと努めている。 事前訪問・事前見学を勧め行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約時や面会時に何か要望がないか伺うようにしている。 家族・入居者の希望があれば、ホームでの生活を見ていただくため、家族の宿泊を了解している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>生活歴・家族や本人の話し・医師の所見等から「必要」を見極める努力をし、対応している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の好み・能力に合わせて、生活上の仕事を分担していただいている。手伝いの際「ありがとう」の声かけをし、持ちつ持たれつの関係ができています。季節行事・慣習について、教わることが多い。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出・外泊・病院受診など協力してもらっている。面会時に近況報告を行っている。壁新聞で日頃の様子を張り出し、面会時にみてもらっている。定期の報告に写真送付状を送付している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行きつけの美容院・主治医など、これまでの関係を尊重している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月、ご家族とかかりつけ医を受診されて、お好きな「うどん」を食べて帰られる方もある。職員とともに、ご自宅に戻ってみられたり、ご家族とお墓参りをされる方もある。以前住まわれていたところの民生委員の方や、お友達が訪ねて来てくれることもある。ご家族から届いた手紙には、必ずご本人から返事を出せるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係性をみて、必要以上に介入しないような働きかけを行っている。 1つの作業を数名で行ってもらい、会話がしやすいよう援助をしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の方があれば面会に行っている。 病院側とも連絡を取り、入退院対応につなげている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活リズムをみて、家族からの情報も参考にし、本人の意向も確認しながら行っている。 (外部評価) 夜間、車いすを使用してトイレに行かれる方やお部屋にポータブルトイレ置いて使用される方等、個々のご希望等も聞きながら、ご自宅での暮らし方を大切に続けられるように支援されている。意思表示のむづかしい利用者には、表情や動作等から、「今、何をしたいか。何をしたいか。」を探り、支援につなげておられる。アセスメント表には「認知症状況意思疎通、活動・作業、移動・移乗、家事、排泄、睡眠、入浴、更衣・整容、バイタル、内服、その他」の欄を設け、利用者一人ひとりの現状や希望等の情報を集めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に、本人・家族から情報を伺い把握するようにしている。 また、ホームで生活しながら本人や面会者から情報を伺い記録に残している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態観察をし、変化があれば記録し、情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、作成している。日常の中で発した意見・希望、面会時に聞いた要望、通院時のDrアドバイス・指示をふまえて作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「個別援助計画」にご家族の意見欄を設け、意見を出してもらうようにされている。「夜間の車いすの使用」「自分で食べられないときには介助してほしい」等、利用者個々がより良く暮らせるように、ご本人やご家族とも話し合っ、現状に応じた介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人記録にケアプランを挿み、日々確認できるようにしている。 気づき・対応を記録に残すようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族による対応が難しい場合や本人の心身の状態により、受診の援助をしている。 それぞれの主治医との連携も行い、対応している。 医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問により、アドバイスを受けている。 また、急変時にも対応できるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>依頼をし、ボランティアの訪問、消防署協力による避難訓練及び指導に来て頂いている。 近くのスーパーへ入居者の方と一緒にいる。 週2回パン屋に来てもらい、好きなパンを選んでもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に担当医の希望を伺い、対応している。 症状に合わせて、適切な医療機関の受診がで きるように支援している。	
			(外部評価) 事業所では、利用者、ご家族の希望を聞き、 これまでのかかりつけ医に続けてかかってお られる方や協力医を希望される利用者等、 それぞれの希望に合わせて支援されている。 近くの医療機関の受診は、職員が同行され、 遠方の医療機関への受診には、ご家族が同 行されている。受診の結果は、事業所から も、ご家族からも、互いに報告し合ってお られる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携看護師に状態を毎日報告し、必要 時に電話で相談、確認が必要であれば訪問 してもらっている。また、週1回の定期訪問 時に相談・アドバイスを受けている。終末期 の対応も可能。かかりつけ病院の看護師に も相談しながら対応している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 職員が面会し、医師や看護師・ご家族から 状態について情報を得て退院に向けて備 えている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化してきた場合には、本人・家族・主 治医などと必要に応じて相談し、今後の方 向について決めている。また、ホームで対 応可能な内容についても話をし理解を得て いる。余命宣告を受け、終末期に入れた 時点で同意書を交わし、家族・医師・看護 師との話し合いをくり返し、不安の解消と 具体的な支援を決定している。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期を迎えた場合に は、ご家族、医師、管理者と話し合いを重 ねて、又、終末期に立ちあうご家族、職 員の心構え等についても話し合い、支援に 取り組まれている。看とり支援時に他の利 用者への影響等、心配なこともあったよう だが、利用者の方達も落ち着かれていたよ うである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 吸引機や酸素の使用方法について全職員が理解している。急変時のマニュアルを作成し、スタッフ会等で配布している。また、経験の浅い職員に対しては研修参加をさせたり指導も行っている。 連絡体制については、スタッフ会等で話し、いつでも確認できるように目に付くところへ張り出している。 救命救急講習も順次受講している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し、いつでも見られるようにしている。 スタッフ会で誘導・通報・応急手当等の分担について話し、自分の役割を把握している。 定期的に避難訓練を行い、入居者の方にも避難経路の確認をしてもらっている。 (外部評価) 毎月、自主的に避難訓練に取り組まれている。夜間想定訓練では、2階から布団を使って階段から避難させる訓練を行われた。	夜間の災害時に備えて、地域の消防団や地域の方達と協力し合えるような体制作りについても、すすめていかれてはどうだろうか。利用者、職員の安心と安全を確保できるような体制作りについて、運営推進会議等も活かしながら、話し合いをすすめてみてはどうだろうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという気持ちを忘れず接している。記録などの取り扱いにも注意している。 居室への入室の際は必ず本人の了解を得ている。 言葉遣いに気をつけ、不適切な言動があれば職員同士で注意しあっている。 (外部評価) 職員は、利用者の出来ることを行ってもらえるよう支援されており、見守りながら「お願いします」「ありがとうがございました」と声掛けをされていた。食後の歯磨きをされる際、歯磨き粉がなくなった利用者、職員は「この間、一緒に買いに行った時の歯磨き粉ですよ」と新しいものをお見せして、ご本人にも納得していただきながら取り替えておられた。	事業所では、「言葉遣い」に気を付けておられるが、時々、職員同士の会話に配慮の必要な場面も見られる。今後も、職員同士で点検や確認をされたり、ご家族や運営推進会議等でご意見を聞いてみるような機会も作ってみてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 着る服・食べたいもの・見たいものなど本人から聞き取り対応している。 本人の思いや希望がくみとれるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 掃除・体操・食事・入浴の時間は大体決まっているが、その時にするかしないかは本人の意思にまかせている。他はある程度自由に過ごされている。突然の外出(買い物・散髪など)希望も出来る限り対応しているが、無理な場合は日を改めて対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院がある方は、そちらで行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ・調理・配膳・下膳・食器洗いなど一緒にやっている。 (外部評価) 調査訪問時の昼食は、職員が一人ひとりに配膳され、利用者個々でご自分で食べやすいように置き換えておられた。利用者同士で協力し合って下膳されていたり、食器を洗っておられる方の様子も見られた。職員は、食事を終えた方に、お茶のお代わりをすすめておられた。椅子の下には、足置きの踏み台があり、食事時の姿勢にも気を配っておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) こまめに水分補給を促している。ポカリスエットも常備して提供している。それぞれに合わせた、食事量・形態で介助も必要に応じ行っている。食事量のチェックをして、状態に応じて栄養補助食品で対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後、口腔ケアを援助している。その人その人の能力に応じ、足りない部分を介助している。粘膜ブラシで口腔内のマッサージを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来る限り布パンツを利用できるように援助している。 個々の排泄パターンを確認し、必要な援助を行っている。 (外部評価) 日中は、職員が声を掛けたり、利用者の出来ないところをサポートして、トイレで排泄できるように支援されている。便座に座って床に足の届かない利用者には、足台が用意されていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を促し、食事を消化しやすい形態にしたり、ヤクルト・ヨーグルトの提供をしている。 毎日、運動を取り入れている。 又、下剤も便秘の状態に合わせて調節している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯や回数は目安として決めているが、本人の希望があれば、希望を最優先して対応している。 (外部評価) 基本的には3日に1回の入浴となっているが、利用者の希望に合わせて毎日入浴される方もある。又、薬用せっけんを使っている方や午前中に入浴される方もいる。調査訪問時、ご自分の着替えを持って浴室に行かれる利用者の様子が見られた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 年齢や体力の合わせて対応している。 室内の換気、温度調節にも気をつけている。 起床・就床時間はそれぞれに合わせている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をいつでも見られる所へファイルし置き、確認するようにしている。 内服薬変更時には、申し送り・日誌の記入をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎月行事を行い、楽しんでもらえるようにしている。 毎日、それぞれ役割を持ち作業されている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 寒さ・暑さが厳しい時期はなかなか外へ出られないが、気候の良い時は買い物、近所の散歩へ良く出かける。 畑での収穫・手入れなど一緒に行くこともある。 西予市社協主催の「オイネ号」の参加を働きかけている。 お墓参りなどの希望は家族に伝え、協力してもらっている。	
			(外部評価) 「暖かくなれば、外出が増えるから」と、歩く練習をされている利用者がおられた。散歩に出かけたり、庭の桜の下で食事をされることもある。又、野菜畑の世話等を計画される等、日常的に外に出る機会を作っておられる。先日は、近くの県歴史博物館に展示されている「おひな様」を見に行かれ、利用者が喜ばれたようである。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の了解を得て、日用品の購入や美容院・病院の支払をされる方もいる。 ほとんどの方は管理が困難なため手持ちでお金を持っておられず、支払う場面はない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたり、手紙の返事を書いたりする援助をしている。 贈り物が届いたらお礼の電話を必ずかけるようにしている。 手紙が出せない方は、ビデオレターを作って送ることもある。 年賀状は毎年書いて貰う様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の花を時々飾っている。 月行事に関連した飾りをしている。 TVの音や外からの光・室温などは入居者に聞いて調節している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には季節の花が飾られ、廊下には節分等の行事の写真が掲示されてあった。利用者が正月に書いた書き初めや地元の神社のお札もあった。居間には、段飾りや装飾等のお雛様が各所に飾られてあり、2階ユニットの天窓からの光は調節できるようになっていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食卓とTV前のソファとで壁はないまでも独立した空間作りをし、他者との交流も独りで過ごすことも出来るようになっている。 孤立することもなく1人1人思い思いに過ごされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族会で撮った家族写真などを飾っている。 本人の馴染みのものを持ってきてもらっているが、寝るだけの部屋になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>机で手紙を書けるように、便せんや封筒、切手の入った書類ケースを置いておられる方があった。利用者が元気な頃に作られたちぎり絵や木目込みを、季節毎に飾り楽しんでおられたり、ご主人の写真を飾っておられたり、化粧水を置いて美容に気をつけておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>工夫することで出来るようになることは、改善している。 自分のことはなるべく自分でしてもらい、困っていることは一緒に行うことで安心して活動できるように支援している。 入居者さんによって対応方法に変化が必要なることを日々の業務の中で話し合っている。</p>	